

公益財団法人かめのり財団
講演会・シンポジウム

2014年度は、王敏理事(法政大学教授)の講演会を次のとおり行いました。

開催団体(場所)	日時	対象	演題	
茨城県日中友好協会 (新春交流会)	2015年 1月26日(月) 10:15~11:30	日中友好協会 会員など 約200名	<p>「新たな日中友好促進の展開 一日中首脳会談を契機として」</p> <p>初めに、これまでに王敏理事が会った茨城県での中国とかかわりのある事柄について、水戸光圀、朱舜水、借楽園の好文亭などを挙げ、古来より日中間の人々の行き来があり、文化を共有してきたことを紹介しました。今後は、日中双方向中心の交流・理解、教育・人物交流の深化、食を中心とした生活者としての互恵関係、日中の共通の漢字をもとにした地域の再発見を考え、冒頭に紹介した茨城県にある日本と中国との豊かな背景を活用しながら、両国の人々が微笑むような交流・関係が展開していくことを願っていると締めくくりました。聴講者からは「日中交流の原点を学んだ。身近な例をあげわかりやすかった」との感想が寄せられました。</p>	
新潟・ハルビン友好市民の会	2015年 2月21日(土) 11:00~12:30	友好市民の会 会員、一般市民 約70名	<p>「異文化交流の知恵」～驚きから楽しみへ～</p> <p>日中共通の事柄である「漢字」を話の中心として講演が進められました。漢字を中国から取り入れた日本は、漢字を活用しながら独自の歩みをしてきたことを紹介。日本人の知恵で「国字」を生み出し、その国字(例えば、「政策」「投資」など)が今は、中国でも採用されている例を挙げ、漢字に代表されるように生活、文化、民間交流は千年前から続く互恵関係であり、今後も継続されていくであろうことを話しました。漢字は日本と中国をつなぐものであり、漢字という通路を開発して異文化理解につなげ、同じ漢字を使う日中がともに微笑み、楽しみながら、高めあい、発展しあえる関係作りをしていくことを提案しました。これまでの日中の生活、文化の交流の歴史があるように次世代も相互理解から相互発展していけるように願い、その代表的地域が新潟でありますようにと締めくくりました。</p>	
かわさき国際交流民間団体協議会	2015年 3月21日(土・祝) 14:00~15:30	一般市民 約100名	<p>「今日の異文化理解活動の形と役割」</p> <p>王敏理事講演会の前に中国の伝統芸能である変面の披露があり、これを受け「面」の話から始まりました。日本にはさまざまな「お面」が残されており、それらが1200年前の日本と中国との異文化交流を通して伝わったもので、日本で新たな生命力を与えられ現代も伎楽として薬師寺などで行われていることを紹介。謙虚で熱心に学ぶ日本人が吸収し、発展させて活かしてきた中国からの文化が存在しているように、異文化理解はお互いに接近して実現するものであると説明しました。そして宮沢賢治の作品は、中国の『西遊記』の影響を大きく受けていること、動物と人間との対話を重視し常にお互いが中心であったことに加え、賢治が常にアジア人としての意識、アジア的価値観を常に考えて作品を書くことで異文化理解、国際交流を実現しようとしていたことを紹介しました。その生き方は、今日の異文化理解活動の形と役割に大いに通ずるものがあると締めくくりました。</p>	